

教団新報

定 価 1 部 144 円 (本 体 133 円 千 共 206 円)
予 約 購 読 料 1 年 分 千 共 5,150 円
紙 代 の み 3,600 円
振 替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
一時移転先 169-0072 東京都新宿区大久保 1-7-18
電話 03(3202)0546、FAX03(3207)3918
URL http://uccj.org
発行人 長 崎 哲 夫
編集主筆 渡 邊 義 彦
印刷所 株式会社きかんし

教区総会報告

大阪

九州

北海

四国

京都

2015 年度

1

教区財政巡り活発に議論



左から上地副議長、小笠原議長、久木新書記

予算原案・修正案とも否決

大阪教区 第60回大阪教区総会は、5月4日、5日、大阪女学院ホールチャペルで、開会時271名中210名が出席して開催された。

総会審議で最も時間が割かれたのが、教区予算案についてである。予算案では、教団伝道資金の交付金と負担金を収入と支出に計上し、支出の「互助積立」を積み増し、教会負担金の増加を抑えるために、特別会計から210万円を繰り入れている。小笠原純議長は、教区が伝道資金についての「抗議と要望」を出した経緯に触れつつ、教団総会で負担金として決められたこと、他教区を支えるべきであることを踏まえた上での、「苦渋」の決断であったことを説明した。

予算案に対して、伝道資

金負担金はそのままにして、交付金を受け取らず、互助積立の増額分を減額し、特別会計からの繰入を増やす修正案が出された。提案理由として、「他教区を支えることは大切であるが、教区が具体的に痛みを負って、この課題に真剣に取り組む、信仰が通った制度にしていくべき」との意見が述べられた。修正案に対しては、「教区の現状を踏まえ、原案を支持すべき」との意見も述べられた。

修正案は、議員数164名中、賛成76名で否決、原案も賛成72名で否決された。結果、教区規則に従い、前年度予算を踏襲することとなった。この結果について、各教会の混乱を最小限にして欲しいとの意見があった。

総会冒頭、議事日程の承認の際、開会礼拝後の講演会を行わず、審議に時間を割くか、終了時間を早めてほしいとの要望が述べられ、意見が交わされた。予定通り、講演会が持たれ、「沖繩・辺野古で今起きていること」と題し、DVD上映と現状報告があった。また、昨年の総会で「開会礼拝、准礼式、按手礼式において、教団信仰告白を全文告白する」議案が出され、常置委員会で見え、今総会においても唱えないことの事情が問われた。小笠原議長は、前総会期に学習会を2度開き、継続事項となっていると述べた。

「大阪教区規則変更に関する件」では、伝道委員と教育委員の定員を13名から11名とすることが承認された。委員が定数に満たない状況につき、総会で委員会の報告の時間を取るべき、機構改正をすべき等の意見が述べられた。

北村慈郎教師の「免職処分」を撤回し、聖餐の在り方について議論の場の設置を求める件が承認された。提案者は、既出議案に、教団総会で上程されなかったことに抗議し、議論の再開を求める趣旨を加えたことを説明。議案に対しては、



大阪

こと等について、活発な質疑応答があった。
三役選挙が行われ、小笠原純議長（高槻日吉台）、上地武副議長（大正めぐみ）が引き続き選出された。書記に、正副議長推薦の久木哲議員（交野）を選任した。

常置委員選挙結果
【教職】小笠原真人（東梅田）、大澤星一（西大和）、林邦夫（大阪城北）、尾島信之（大和郡山）、一木千鶴子（高石）、有澤慎一（八尾東）、清藤淳（和歌山）、岡村恒（大阪）、井口智子（河内松原）、田邊由紀夫（茨木）、吉本幸嗣（岸和田）

【信徒】山崎真子（愛隣）、東谷誠（いすみ）、黒野忠和（東梅田）、江本義一（茨木東）、鈴木恵美子（馬見労働）、星野晴彦（和歌山）、楠原道温（茨木）、寛伸子（茨木東）
（嶋田恵悟報）

伝道資金制度反対表明を議決



九州

財政、宣教協約実質化の項

目において教団伝道資金に触れて、本資金が財政を圧迫し、教区の諸活動は制限を受けることになると報告した。

常置委員会報告では、第4回常置委員会（15年1月開催）において財務委員会より提案された教団伝道資金申請（400万円）を行う案を否決し、申請しない決定をした点に質疑があり、なお、これからでも申請を行うよう求める意見が

あった。
2002年以来更新してきた九州教区と韓国基督教長老会群山老会との宣教協約は、15年5月をもって第4次を終了する。第5次協約締結（19年まで）を可決した。群山老会代表者出席のもと協約締結の調印を交わした。

教区宣教基本方針に基づいて、2年毎、宣教基本方針を定めてきた。今回は、2007～2016年度の宣教基本方針に基づく最終

2年の基本方針となる。方針を平和、共生、連帯の各項に細目を設け定めている。また重点施策として、伝道・互助、東日本大震災被災支援、原発再稼働反対、日本社会右傾化反対を挙げている。若干の語句修正を施した修正案を166名中101名の賛成で可決した。

伝道資金制度反対表明は、規則制定に至る経緯が不当であること、教団総会決議に基づく執行決定が不

15年度予算案を可決し、教団伝道資金負担額299万円を各教会に賦課し教団に拠出、一方、資金交付申請は行わないこととなった。14年度には教区活動連帯金396万円を受給した。川畑馨財務委員長（佐世保）は、不足を教会互助資金（14年度残高6874万円）からの繰入れで対応する、と説明した。予算案は、5667万円（前年予算比421万円減となる）。

教区総会で審議決定し教団総会に提案した議案が審議終了廃案となることが常態化しているとして、教団

三役選挙結果

【議長】梅崎浩二（大牟田正山町）、【副議長】日下部遺志（川内）、【書記】新堀真之（香椎）

常置委員改選選挙結果

【教職】青山実（名瀬）、西岡裕芳（福岡警固）、西畑望（大分）、原田のぞみ（宮崎清水町）

【信徒】浅野直人（福岡警固）、伊津見七生子（若松浜ノ町）、今村泰子（長崎銀屋町）、志満秀武（福岡中部）
（新報編集部報）



三役2期目に。
左から日下部副議長、梅崎議長、新堀書記

伝道資金移行、負担金算定方式変更、未収金、教区財政を圧迫

北海道

第75回北海教区総会が4月29日、30日、札幌北光教会にて開催された。開会時、議員は126名中98名が出席した。

開会礼拝では、小西陽祐議員(余市)が「わたし車を買いました」とユニークな題で広大な伝道地を有する北海教区ならではのエピソードを披露した。また、准式式を行い新たに補教師1名が立てられた。

区現状について、63教会・伝道所の約2割が主任教師を迎えられない原因を「教師数の不足ではなく教会の財政力の低下に起因」とした。これに加え「教区活動連帯金廃止、伝道資金への移行」「教団負担金の算出方式変更による負担額の一挙増加」「3千万円を超える未収金」が教区財政を圧迫しているとした。そのような中「青少年の活動が復興定着してきていることは喜びである」と報告した。

長期宣教計画に基づく年度活動計画は、第4次計画初年度であった14年度には資料4頁に亘るものであったが、15年度は整理され資料1頁にまとめられ簡潔になった。革新・連帯・平和の各項目に3項目ずつの小項目を設けるものとなり、年間活動予定一覧を資料として付し見渡ししやすいものになった。

決算報告及び予算案審議において、今多正行財務部委員長(札幌元町)は、教区負担金未収金の期末残高3600万円が教区年間収支決算額の約50%に達していること、教団伝道資金移行に伴い教区活動連帯金に比して実質受取額で280万円減となったこと、教団負担金の算定方式変更により前年比63万円負担増となったことを説明した。この厳しい予算の中で、牧師招聘ができないことが常態化しないよう、謝儀保障費・奨学手当計2500万円を計上し前年同額を維持するとした。15年度予算7180万円(前年予算比3700万円減)を可決した。



北海

西東京教区との第7期宣教協約締結を北海教区として満場一致で可決。15年度6期30年の協約を満了する。5月24日、25日開催の西東京教区総会での締結可決を待つ26年度から5年間の協約となる。

その他、これまで個別に定められていたセクシュアル・ハラスメント防止ガイドライン、パワー・ハラスメント防止ガイドラインをそれぞれ廃止し、統合した教区ハラスメント防止ガイドライン制定を可決した。

【三役選挙結果】
【議長】久世そらち(札幌北部)
【副議長】原和人(手稲はこぶね)
【書記】木村拓巳(美幌)
常置委員選挙結果(半数改選)
【教職】西岡昌一郎(旭川六条)、藤吉求理子(道北クリスチャンセンター)、清水和恵(新発寒、任期1年)
【信徒】佐久間光昭(置戸)、小林あずみ(千歳栄光)(新報編集部報)



三役再任。左から黒田副議長、芦名議長、寺島書記

教団「伝道資金」申請小委員会、申請について報告

四国教区

4月29日、30日にかけて、ザ・グランドパレス(徳島)を会場に、第73回四国教区定期総会が開催された。開会時の議員数は、147名中118名であった。

開会礼拝が捧げられ、続く議長メッセージにおいて芦名弘道議長は「教区は各個教会を支える主体である。それは、教区は福音伝道の第一の主体である。各個教会の歩みを背後から支え、前進が困難なときには課題を共有し、また、各個教会の日常の営みを正しく歩めるように見守ることを意味している。加えて、『四国教区と諸教会の伝道の将来―互助検討小委員会の検討結果報告書』に基づいて」と題し、第3回常置委員会と合わせて開催された協議会について言及し、「今後の四国教区の伝道の具体的なあり方、ならびに、謝儀互助について積極的に意見を聞きたい」と語り、最後に、東日本大震災の影響

で困難な中にある人々への支援継続を述べ、メッセージを閉じた。なお、このメッセージを文書化してほしという意見が議場から出された。その後、諸報告から本格的に議事が開始されたが、全体を通してスムーズな議事進行がなされた。諸報告が丁寧な為であったが、常置委員会報告において、「教団「伝道資金」申請

小委員会」を組織し、伝道交付金360万円、教区伝道方策交付金60万円、合計420万円を申請することと決定し、全額承認されたこと、沖繩教区との相互訪問について繰り返し検討したが、現在の形での相互訪問はしばらく見送ることが報告された。これに対し議場からは、どのような形で、沖繩教区との

関係を続けてほしいという要望が出された。

1日目夕食後には、恒例の協議会が「教団伝道資金について考える」を主題として開催された。教団問安使の雲然俊美教団書記、四国教区の芦名議長、四国教区財務部の長島恵子委員長の3名が発題者となった。初めに雲然書記が伝道資金と乖離している点、教会の創立の経緯について、また、

施行された伝道資金制度の現状について説明した。

続いて芦名議長が「教区の伝道は教区で」という自活の伝道を標榜する教区としての視点から発題し、伝道資金規則第4条について、各個教会と教区の伝道が分離して考えられている点について、加えて、申請の時期が教会の営みの現実と乖離している点、教会の

伝道を単年度で考える点を問題点として指摘した。

最後に長島財務部委員長により、教区活動連帯金における教区間格差の是正という視点や、各教区の現状を一番理解している各教区議員の意見が伝道資金制度に反映されていない点等が問題点として指摘された。発題を受けて議場からは、伝道をもっと幅広く考えるべき、伝道をもっと長期の視点で捉えるべき等の意見が出された。

2日目に行われた教団問安使との質疑応答で、震災



四国

正・副新議長、新書記を選出

京都教区

5月4日、5日、第79回(合同後第49回)京都教区定期総会が、京都丸太町教会で開催された。開会時112名の議員の出席で、29の議案について審議した。

三役選挙と常置委員選挙では、議長に入治彦、副議長に森下耕、書記に李相勲、常置委員に信徒議員7名、教師議員7名を選出した。

井上勇一前議長報告に続いて法定議案を審議した後、京都教区センターの財産を宗教法人京都教会へ移管するための覚書全文を確認する件を承認した。

今回の総会の中では、2つの協議会が開催され、協議会Iでは、「教団議長への質問と回答」というテーマの下、石橋秀雄教団議長に陪席を要請し、教団が再び

策定しようとしている「改訂宣教基礎理論」また新たに設置された「伝道資金規則」についての問題点について協議の時もあったが、同じ土俵に立ちつつ、質疑応答は平行線が終わった。

1日目の議案修了後に行われた協議会IIでは二つのテーマを設定した。一つ目の「教会謝儀支援制度の今後」については、横田明典

議員が発題し、年々厳しくなる宣教連帯の財源の問題について、一つの方向を示した。また二つ目は、昨年度決定した教区センターを宗教法人京都教会へ期間限定(10年)に移管することに伴い、将来的には宗教法人教区センター教会(仮称)を設立し、同センター教会に再移管することになっている議題を巡って、セ

ンター教会の構想を井上前議長が発題し、協議の時をもった。

2日目、逝去者記念礼拝と3名の教師の准允と3名の教師の按手が行われた。三役選挙結果

【議長】入治彦(京都)
【副議長】森下耕(洛陽)
【書記】李相勲(福知山)
常置委員選挙結果
【教職】井上勇一(洛南)、



京都



教区四役。左から日向恭司幹事、原新副議長、久世議長、木村新書記

今井牧夫(京北)、竹ヶ原政輝(丹波新生)、横田明都、奥野力ネコ(膳所、典(近江金田)、大山修司(膳所)、大澤宣、(紫野)川上信(八日市)

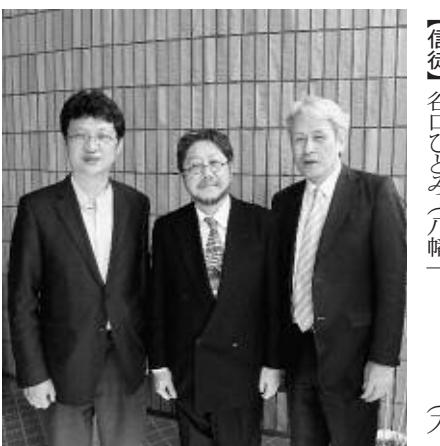
【信徒】谷口ひとみ(八幡ぶどうの木、菅恒敏(京政輝(丹波新生)、横田明都、奥野力ネコ(膳所、典(近江金田)、大山修司(膳所)、大澤宣、(紫野)川上信(八日市)

【信徒】長島恵子(鴨島兄弟、木俣努(香川豊島、近藤康夫(新居浜西部、不動光子(さや)、永見陽子(高知)、東安子(近水(小林信人報

【信徒】寺島謙(松山城東)常置委員選挙結果

【教職】上島一高(今治)、小島誠志(久万、篠浦千史(さや)、矢野敬太(愛南、岡本康夫(日和佐、福田哲(多度津

【信徒】黒田若雄(高知)【書記】寺島謙(松山城東)常置委員選挙結果



左から李書記、森下副議長、入議長

▼宣教研究所委員会▲

今期活動方針4項目を確認

第39総会期第1回委員会が、3月30日、教団会議室にて委員7名のうち6名の出席によって開催された。今総会期に招集された委員は、松井睦（聖徒・招集者）、川崎善三（姫路福音）、小泉健（東京神学大学）、



後列左から川崎、村上、小泉
前列左から林書記、松井委員長、小堀

研究所規定」に基づいて、総幹事の下に置かれている委員会の位置づけと任務について確認した後、長崎哲夫総幹事からの挨拶を受けた。総幹事より宣教研究所所蔵資料の整備と保存の見通しについての検討を期待する旨が述べられ、要望として承った。

続いて前総会期委員会からの申し送り事項について検討し、今総会期の活動方針として、以下の通り確認した。①万博・東神大・教師検定問題年表改訂について、今期もプロジェクトを継続し、研究員に委嘱する。担当は小泉委員。研究員の推薦を東京神学大学教授会に依頼する。②「改訂宣教基礎理論第二次草案」から

▼救援対策本部会議▲

国内募金額10億円超を確認

抽出し得る宣教課題（全信徒祭司性、「伝道協力グループ」等の個別課題）の具体的な研究について、適宜

3月20日に教団救援対策本部第4回（通算第38回）、4月24日に第5回（同第39回）会議を、教団会議室にて開催した。

課題を挙げて取り組む。③宣教研究所編『陪餐問題に関する資料ガイド』（1991年）についての諸意見の整頓に関して、今期、プロジェクトを立ち上げ、研究員を委嘱する。担当は小堀委員。④『互いに支え合うためにー各教区謝儀保障・教区互助制度資料集』（2001年）について、伝道資料としての関係、緊急の改訂の必要を認め、各教区からの資料のとりまとめに取り組む。その他、資料の整備と保存については、日本キリスト教会館改修工事の完成を待つて、あらためて実況見分を行い、検討することとした。また、『宣研だより』については、今総会期は発行することを確認した。

次回6月22日とし、川崎委員の祈禱をもって閉会した。（林 牧人報）

「いずみ」における田状腺検査実施等、関東教区（水戸中央教会の再建計画等）からの報告がなされた。審議事項としては、宮古教会会堂・牧師館建築工事支援（総額約1億5千万円、支援・貸付各4千万円）、一関教会会堂修復工事支援（総額約1千万円、支援・貸付各390万円）を決定した。また、中高生アメリカ招待プログラムの支援、台湾からのボランティアワークの歓迎夕食会開催等について検討したほか、被災教会独自の全国募金実施の要望については、教団の全国募金が終了したことから、当該教区の了解を得られた場合は認めることとした。その他、各センターにおける保養プログラム支援、本部委員による被災地訪問報告・計画、各教区総会での報告内容の確認等を扱った。（雲然俊美報）

◆宣教師会議◆

「パートナーへの期待・展望」をテーマに

2015年の宣教師会議は3月22日～26日にかけて京都の関西セミナーハウスを会場にして開催された。参加者は62名。内容は大きく3つに分けられる。

一つは教団の将来にも関わるディスカッション。二つ目は京都のキリスト教と関連する歴史を深く知るプログラム。三つ目は宣教師の交わりを中心に据えたプログラムである。今年は派遣元（海外教会）にも招待してルツ・ウェラー牧師（魚津、ジュディ・チャーソン牧師（合同メソジスト教会・世界宣教局副局長）が

それぞれ発題した。第2回目のディスカッションのテーマは「パートナーへの期待」というテーマで、戦国時代のキリスト教に關する歴史に触れた。特に記憶に残るのは臨済宗の妙心寺に保存されているイエズス会の南蛮寺にあった鐘である。一同興味深く仕職か

朝のデイポーションは右橋秀雄教団総会議長と荏孝盛台湾基督長老宣教委委員長が担当した。特に荏牧師によるデイポーションの会場に能楽堂を使用したことは感謝であった。（加藤 誠報）



坂本龍五郎氏（国府教会担任教師）
14年12月8日逝去、84歳。
56年東京神学大学大学院卒業。藤沢教会、57年より国府教会を牧会。遺族は娘・坂本道子さん。
任担任教師）
15年1月13日逝去、76歳。東京都に生まれる。68年に日本聖書神学校を卒業、70

年より豊島駒込、巣鴨、小石川白山、千城台、勝沼教会、十条伝道所を牧会。遺族は妻・渋谷怜子さん。
加藤 實氏（隠退教師）
15年3月1日逝去、80歳。東京都に生まれる。62年東京神学大学大学院卒業。同年より平塚、二宮教会を経て、68年から香港、台湾へ宣教後、片瀬、信州教会を経て、00年から中国の南京師範大学、華中師範大学で務め、08年に隠退。遺族は妻

15年3月12日逝去、86歳。兵庫県に生まれる。55年関西学院大学大学院卒業。同年より内海、香住、具平安大牟田正山町教会を経て、98年に隠退。遺族は娘・青木百合子さん。
大久保進氏（隠退教師）
15年3月17日逝去、92歳。北海道に生まれる。66年受

15年4月4日逝去、84歳。愛媛県に生まれる。89年日本聖書神学校卒業。同年より大島、児島、用瀬教会を牧会し、01年に隠退。遺族は妻・阿部充子さん。
河瀬伊勢子氏（隠退教師）
15年4月11日逝去、91歳。47年女子神学専門学校卒業。同年より代々木、島之内、大船、鎌倉教会を牧会し、87年に隠退。

・加藤鈴さん。
阪西直和氏（隠退教師）
15年3月9日逝去、85歳。兵庫県に生まれる。57年東京聖書学校卒業。同年より大津東、玉野教会を経て、06年に隠退。遺族は妻・阪西彌恵さん。
吉新治夫氏（隠退教師）
15年3月10日逝去、85歳。韓国・仁川に生まれる。55年東京神学大学大学院卒業。同年より八幡荒生田、杵築教会を経て11年に隠退。
青木研甫氏（隠退教師）
15年4月1日逝去、68歳。愛知県に生まれる。71年日本ナザレン神学校卒業。96年より大阪淡路、南大阪教会を牧会。遺族は夫・岩橋常久さん。
阿部 剛氏（隠退教師）
15年3月27日逝去、89歳。東京都に生まれる。52年日本基督教神学専門学校卒業。同年より自由が丘、四日市教会を経て、横須賀学院に勤め、99年に隠退。遺族は息・河井真実さん。
岩橋田鶴子氏（無任所教師）
河井希充氏（隠退教師）

駒内、琴似中央通、手稲はこぶね、石川（沖繩）教会を経て、11年に隠退。遺族は妻・大久保澄子さん。
河井希充氏（隠退教師）

1981年、東京都生まれ。立川駅前キリスト教会員。エマオ石巻専従。